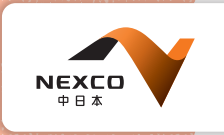


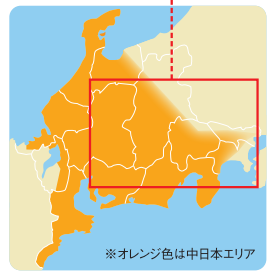
中央道



自然と
人をつなぐ
道づくり



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を
続けていきます



中日本高速道路株式会社
 名古屋市中区錦 2-18-19
 三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
 TEL:052-222-1620
<http://www.c-nexco.co.jp>



二〇一二年一月に中央自動車道は全線開通三〇周年を迎えました。中央道は日本アルプスの麓や山間部など自然環境が豊かな地域を通過するため、長年にわたり生物多様性に配慮した様々な取り組みを実施し、見守ってきました。ここでは、その取り組みの一部を紹介いたします。

1 積極的な樹林化



樹林化(諏訪市付近)

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、周辺の自然を調査し、地域に適した樹木を用いて、高速道路のり面を積極的に樹林化しています。

2 自然林の保存



既存林と散策路(駒ヶ岳SA)

駒ヶ岳サービスエリア(SA)には豊かな自然林が広がっています。SAの建設では、自然林を残してその中に散策路を整備し、自然を活かした配置としました。

3 現場発生材の有効活用



甲府昭和IC

建設工事では土や石、木材など様々なものが発生します。通常それらは処分してしまいましたが、それらを修景用資材として、有効活用しました。

4 希少植物の移植



タマノカンアオイ

建設地にタマノカンアオイという絶滅危惧種が確認されたため、環境が似ている近隣の自然林内に移植し、保護しました。移植後も、生存が確認されています。

5 森林表土の活用



2012年現在

森林表土には、豊かな森林が百年以上かけて作り上げた土壌の中に、そこに自生する樹木の種子が含まれています。東富士五湖道路では、貴重な森林表土をあらかじめ採取・保存し、道路のり面に吹き付けました。今では、表土内に含まれていた種子が芽を出し、周辺環境と同様な樹林となつています。

6 野生動物の移動路設置



リスの移動路



通路を移動した小動物の足跡

高速道路の建設により、野生動物の生息域が分断されないよう、動物も通れる通路を設置しています。さらに、東富士五湖道路では、リスなど樹上生活する小動物専用の移動路を設置しました。

7 景観の保全



中央道から見える八ヶ岳連峰

自然環境に配慮し、地域になじませることは、景観の保全に繋がります。中央道では、富士山や八ヶ岳連峰、日本アルプス等の風光明媚な景観がダイナミックに変化する様を見ることが出来ます。自然環境の保全を通じ、今後も景観に配慮した管理を続けていきます。

8 はじめての「地域性苗木」活用



施工前

建設現場では、周辺に自生する種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。地域性苗木を用いることで、地域に自生している樹種を植えることから、他の地域の植物との交雑を避け、地域が本来持っている遺伝子レベルで生物多様性を保全することが出来ます。

一九九六年に日本で初めて地域性苗木を小仏トンネル付近の斜面に植えました。植えてから十数年が経過し、地域性苗木の良好な生育による自然の復元が確認されています。中央道では、これまでに約三万三千本を植栽しました。

2012年

